

むつ総合病院 小児科（合同）後期研修プログラム

研修施設

むつ総合病院、青森県立中央病院、弘前大学医学部附属病院

一般臨床コース

3年次		4年次		5年次	
前半	後半	前半	後半	前半	後半
むつ総合病院		青森県立中央病院 小児科	青森県立中央病院 NICU	弘前大学医学部附属病院	

新生児コース

3年次		4年次		5年次	
前半	後半	前半	後半	前半	後半
むつ総合病院		青森県立中央病院 NICU		弘前大学医学部附属病院	

一般目標

- ・一般小児科医としての知識、治療手技を取得する。
- ・小児の健康上の問題を把握し、その解決に努める。
- ・小児の健康保持と増進、疾病予防に努める。
- ・小児科医として医療の質の向上に努め、医学の進歩に貢献する。

行動目標

1. 一般小児科

1) 神経

- ・痙攣発作の救急処置が出来る。
- ・各年齢に応じた神経学的診断法、必要な検査法を習得し、代表的神経疾患（熱性痙攣、てんかん、神経発達遅滞、など）について、指導医の元で適切な診断と治療が出来る。

2) 循環器

- ・主要な先天性心疾患（心室中隔欠損、心房中隔欠損、動脈管開存、Fallot 四徴、大血管転位、大動脈縮窄など）の症状発現の年齢的特徴を理解し、これらの疾患の診断と重傷度の判定が出来る。
- ・主要な不整脈（房室ブロック、期外収縮など）について診断し、指導医の元で対処、管理が出来る。

3) 血液、腫瘍

- ・正常の造血機構、止血・凝固機構を理解する。
- ・代表的な血液疾患（鉄欠乏性貧血、再生不良性貧血、白血病、血小板減少性紫斑病、血友病など）、悪性腫瘍（神経芽腫、悪性リンパ腫、胚芽腫、腎芽腫、脳腫瘍など）を理解し鑑別診断に必要な検査（血液検査、画像検査、骨髄穿刺）を選択できる。

4) 感染症

- ・主要な感染症について疫学を把握し、病態を理解できる。
- ・病原体の検索、診断、治療を行い、適切な感染予防対策をとる事ができる。
- ・薬剤耐性菌の頻度、耐性発現機構を理解し、適切な抗菌薬療法を行う事が出来る。
- ・各種予防接種の適応を理解できる。

5) 気管支喘息

- ・発作時にその程度と重傷度を考慮した適切な治療（輸液、吸入、呼吸管理）が出来る。
- ・非発作時の長期管理計画を立てる事が出来る。

6) 腎・泌尿器

- ・代表的な腎、泌尿器疾患（急性糸球体腎炎、慢性腎炎、ネフローゼ症候群、尿路感染症、急性腎不全、慢性腎不全など）について診断と治療の適応を決定できる。
- ・指導医の元で各種治療（食事療法、ステロイドパルス療法、免疫抑制療法、透析など）が出来る。

7) 膠原病・リウマチ性疾患

- ・主要な膠原病、リウマチ性疾患（若年性突発性関節炎、小児皮膚筋炎、全身性エリテマトーデス、混合性結合織病など）の診断基準を知る。
- ・鑑別診断のための適切な血液検査、画像検査を選択し、指導医の元で診断と治療が出来る。

8) 内分泌

- ・各種ホルモンに関する一般的概念を取得し、代表的内分泌疾患（成長ホルモン分泌不全性低身長、糖尿病、先天性副腎過形成、下垂体前葉機能低下症、尿崩症、甲状腺機能亢進症・低下症）の病態生理の基本を理解できる。
- ・腫瘍症候（成長障害、性成熟異常、肥満、やせ、多尿、甲状腺腫など）を来す疾患の鑑別診断を挙げる事が出来る。
- ・診断に必要な内分泌学的検査を選択し、指導医の元で適切に診断と治療が出来る。

2. 新生児

- ・新生児の身体所見を清潔、非侵襲的に得る事が出来る。
- ・在胎週数や日齢を考慮して必要に応じて自ら検査を選択、指示し、その結果を解釈する。

- ・適切に検査を選択、支持し、専門家の意見に基づき結果を解釈できる。
- ・在胎週数や日齢を考慮して看護記録や監視装置の情報を収集、解釈する事が出来る。
- ・検査結果を基に輸液計画、感染対策、黄疸治療計画を作成し、指示できる。
- ・新生児に必要な診療手技を習得する。
- ・正常分娩に際し、基本的な対応が出来る。
- ・担当した患者の診療経過について総合的に問題を分析、判断して評価、カルテの記載が出来る。

指導体制

1) 指導医数 2名

2) 指導医の氏名および資格

中畑 徹：日本小児科学会専門医、日本腎臓学会専門医

小出信雄：日本小児科学会専門医、日本小児神経科学会専門医

本施設は日本小児科学会研修施設であり5年次に研修修了時に専門医試験の受験資格を取得できる。

本プログラムは暫定的なものであり、希望により研修を中止し、大学院入学などの進路の変更が可能である。